

あゝ天下の災凶——とありそ外牧養し
り——とあり^{上代の}尚社の事記よりいふごと
いふとも西見の歌を記し傳ふ事ある車の
覆つるを見て後車のいふ——めとさる人^あ
り^あ西家禎祥の墓にあり（さうや）

一 祓樂方に人

笛吹一人 大鼓打一人 舞方一人 巫二人 室永
に年祓ま公訴志しる方付の月日新岡村
は樂人の子孫ありと云ふ今ハ樂料もなし
といふ（古流例とめて祓樂の只被村も一人

来て笛を吹く大鼓ハ是れ其代々其職よりま
長年中吹浦村の姓領主方（出づる目安の
うちには長十に年大鼓料を集くる
村役人をいふ）といふもの新曲——とあり
^{は此の歌といふ上代}
^{家臣志村氏なり} 今も是れ其月次の祓事に
宅より大鼓を携へ（祓あ）（出仕え祓年中
を各家より領主の役所（指出）——とあり
しも平日方々^{享保中より毎方の姓を}
^{名無毎方ハ吹浦上よりあり} 大鼓の役
とあり舞方といふハ獅子舞役之式地方
ハ役なり昔より櫻を以て履とすす櫻もて